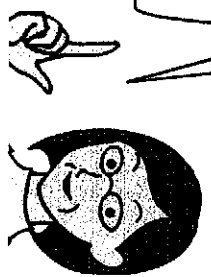


氏名	四年下	単元
	慣用句	単語
年	組	番
3問		

慣用句について

慣用句とは、昔から、生活の中で使いならされてきた言葉です。例えば、
 「火花を散らす」
 という慣用句があります。実さいには火花は散っていませんが、「たがいはげしく争う」という意味で使われています。
 慣用句は、いくつかの言葉が組み合わさって、新しい意味をもつようになつた決まり文句で、次のようになか間に分けることができます。

体と心：頭をひねる・心がおどる
 動物：借りてきたねこ・虫の知らせ
 植物：うり二つ・実を結ぶ
 かたかな：エンジンがかかる・メスを入れる



慣用句は、国語辞典で調べることができます。調べてみましょう。

慣用句 ()	<分類> 体と心 動物 植物 かたかな その他
<意味> ()	<使い方> ()

氏名	四年下	単元
	慣用句 <small>かんじょう</small>	年 組 番
8問		

1 次の [] には、後ろの [] 中の慣用句のうち、どれが入るでしょうか。意味を調べて、当てはめましょう。

- (1) ぼくは、きそく正しい生活をしよう、だからだらした生活に [] 。
- (2) あまりにもいそがしいので、 [] 。
- (3) 大事な話だったので、 [] 。
- (4) 話の内容が、 [] 分かる。

○	ピリオドを打った	○	手に取るように
○	ねこの手も借りた	○	えりを正した

2 次の慣用句の意味に合うものに○をつけましょう。

- (1) 顔が広い。
 - () よく知られている。
 - () もの知りだ。
 - () 顔が目立つ。
- (2) 雲をつかむ。
 - () 意味がないことをする。
 - () はつきりしないでつかみどころがない。
 - () からっぽだ。
- (3) 二の足をふむ。
 - () 二回足ぶみをする。
 - () 人の足をふんでしまう。
 - () 気が進まず、ぐずぐずする。
- (4) 朝めし前。
 - () 朝二はんを食べる前。
 - () かんたんにできること。
 - () 時間がかかりすぎることに。

氏名	四年下	単元
	慣用句	番
7問		

1 次の慣用句の意味を調べて、短い文をつくりましょう。

〈例〉おねを打つ

彼の勇氣ある行いは、人びとのおねを打った。

(1) 足が出る。

〈意味〉 〈文〉	
-------------	--

(2) 三日ぼろろ

〈意味〉 〈文〉	
-------------	--

2 () に生きものの名前を入れて、慣用句を完成させましょう。

(1) () のなみだほじのお金。

(2) () のなくような声。

(3) 先生の () の一声で、会場はじまりました。

氏名	四年下	慣用句
	単元	
年	組	番
8問		

1 次の□には、後ろの□の中の慣用句のうち、どれが入るでしょうか。意味を調べて、当てはめましょう。

(1) ぼくは、規則正しい生活をしようとして、だからだとした生活に ピリオドを打った。

(2) あまりにも忙しいので、 ねこの手も借りたい。

(3) 大事な話だったので、 えりを正した。

(4) 話の内容が、 手に取るように分かる。

- ピリオドを打った
- 手に取るように
- ねこの手も借りたい
- えりを正した

2 次の慣用句の意味に合うものに○をつけましょう。

(1) 顔が広い。
 よく知られている。
 もの知りだ。
 顔が目立つ。

(2) 雲をつかむ。
 意味がないことをする。
 はっきりしないでつかみどころがない。
 からっぽだ。

(3) 二の足をふむ。
 二回足をみをする。
 人の足をふんでしまう。
 気が進まず、ぐずぐずする。

(4) 朝めし前。
 朝二はんをたぐる前。
 かんたんにできること。
 時間がかりすぎること。

氏名	四年下	慣習句
	単元	
	年	組
		番
7問		

1 次の慣習句の意味を調べて、短い文をつくりましょう。

〈例〉おねを打つ

彼の勇氣ある行いは、人びとの胸を打った。

(1) 足が出る。

〈意味〉予算をこえて、お金が足りなくなること
 〈文〉母へのプレゼントの予算は、三千円だったが、五百円も足が出てしまった。

(2) 三日ぼろぼろ

〈意味〉決めたことが長続きしないこと。あきつぱいこと。
 〈文〉新年になり、わたしは、毎日必ず日記をつけようと
 思ったが、三日ぼろぼろだった。

2 () に生きものの名前を入れて、慣習句をかんせいさせましょう。

(1) () すずめ () のなみだほのお金。

(2) () か () のなくような声。

(3) 先生の () () の一声で、会場は静まった。